

Q9 夫婦間腎移植とはどんな治療なのですか？

A9 腎臓移植は、末期腎不全で透析が近々必要か、現在すでに透析が行われている方々を対象に、腎臓の機能をほぼ正常近くまで回復させる治療方法です。提供を受ける腎臓は一つですが、健康な腎臓であれば日常生活には全く支障がありません。提供してくださる方を「ドナー」、提供を受ける側(患者さん)を「レシピエント」と呼びます。

腎機能の改善によって、健康な人とほぼ同様の生活を送ることができるようになり、社会復帰の達成や生活・食事の制限がほぼ緩和されます。また、女性では妊娠・出産も可能です。ただし、すべてが“バラ色”というわけではなく、長期に渡り免疫抑制薬を服用し、糖尿病や感染症といった副作用にも注意する必要があります。自己管理を十分に行わなければなりません。

今回ご質問があった、ご家族から腎臓の提供を受ける生体腎移植は、献腎移植に比べ移植する腎臓の状態が良いので、生着率（移植した腎臓の機能が良好で透析を必要としない

割合）が高いのが利点です。また、計画的な手術ができるので、医学的にも精神的にも準備が整った状態で移植を受けることができます。

日本のほとんどの施設では、生体腎移植のドナーは親族に限定し、血縁者（両親・兄弟姉妹・子どもなど6親等以内の血族）または配偶者と3親等以内の姻族が対象です。血縁関係にない夫婦間であっても、また血液型が異なっても実施が可能となってきています。術前に、レシピエントの血液中にドナーの臓器を攻撃する抗体がないかをクロスマッチ検査で調べますが、原則として陽性（抗体が存在する）では拒絶の可能性が高く、すぐには移植できません。また、ドナーとレシピエントの年齢については、手術に耐えられる健康状態であれば年齢のみを理由に腎臓移植が制限されることはありません。実際には、腎機能と心肺機能などの面から、60～70歳までが限度とされていることが多いようです。

（横山 仁／金沢医科大学腎臓内科・医師）